

## 『翻譯朴通事』と『朴通事諺解』の本文における異同について

竹越 孝

### 1. はじめに

現在我々が目睹し得る『朴通事』のテキストは、いわゆる清代改訂本を除くと以下の二種がある：

1) 『翻譯朴通事』(初刊本)：活字(乙亥字)本、上巻のみ一冊、現大韓民国国会図書館蔵。崔世珍『四聲通解』に「翻譯老乞大朴通事凡例」が収められることにより、編者は崔世珍(1467-1543)、刊行年代は中宗12年(1517)以前と推定される。版式は四周単辺、毎半張9行、行19字、注音・諺解小字双行。影印に慶北大學校(1959、落張あり)及び大提閣(1974)。

2) 『朴通事諺解』(肅宗本)：木版本、三巻三冊、現ソウル大學校奎章閣蔵(蔵書番号：奎1810)。巻頭に丁巳(肅宗3年、1677)十月の李聃命序、巻末に『老乞大集覽』二巻、『單字解』一巻、及び邊暹・朴世華等12人の讐正・書写官名。版式は四周双辺、毎半張11行、行21字、注音・諺解小字双行。影印に京城帝國大學(1943)及びその再印本。

この両書は本文(大字で記される漢字の部分)の内容がほぼ同じであり、いわば今本(新本)系『朴通事』として一括されうるものであるが、もちろん完全に同一ではなく、細かい点では種々の異同が存在する。その異同に関しては、慶北大學校(1959)附載の「對照表(原文差異)」に全15条が挙げられるほか、近年の田村祐之氏による一連の訳注(田村1996-2002、第15話まで)においても言及されている。しかし、両書の異同はこれらによって指摘された点のみにとどまるものではない。そこで、本稿では筆者が改めて対校作業を行った上で確認し得た異同を一覧の形で示すとともに、それに付随する若干の問題を考えてみることにしたい。

なお、この両書の間には直接の継承関係が存在しないことは注意すべきである。『朴通事諺解』巻頭の李聃命序によれば、肅宗朝の初には崔世珍の手になる諺解、すなわち『翻譯朴通事』はすでに失われていたが、平安道宣川郡の訳学周仲が『老朴集覽』なる一書を手に入れたことを契機として、当時の司訳院提調左議政權大運が訳官の邊暹・朴世華等12名を動員して同書に基づく『朴通事』の校訂作業を主導し、成書後は邊・朴両氏の私財により上梓されたという(末松1943参照)。この記載によれば、『朴通事諺解』の編者達が直接依拠した底本は他の今本(新本)系『朴通事』であったことになる。

## 2. 異同表

以下に『翻譯朴通事』と『朴通事諺解』の本文における異同を掲げる。底本としたのはそれぞれ大提閣（1974）と京城帝國大學（1943）である。ごく微細な差異は除き、比較的に字形差の多いものを対象とする。外字は { } 内に構成要素を示す（無表示は左右関係、「/」は上下関係、「く」は包含関係を表す）。ローマ字は当該字に対する右側音の転写（河野 1947 の方式による）、アラビア数字は『翻譯朴通事』における声点の数を表す。（ ）内は上巻の張、表裏、行。なお、崔世珍『老朴集覽』の一篇『朴通事集覽』において当該字に関する記述が含まれる場合、及び慶北大學校（1959）、田村（1996-2002）による言及がある場合には、それを備考欄に示した（それぞれ「朴覽」、「慶北」、「田村」と略称）：

### 『翻譯朴通事』・『朴通事諺解』本文異同表

No.	『翻譯朴通事』	『朴通事諺解』	備考
1	裏 ri 0 (3a2)	裡 ri (2b11)	慶北
2	裏 ri 0 (3a4)	裡 ri (3a3)	慶北
3	裏 ri 0 (3a9)	裡 ri (3a9)	慶北
4	支 je 1 (4b1)	子 jy (4a9)	朴覽、慶北
5	裏 ri 0 (4b6)	裡 ri (4b6)	慶北
6	雞 gi 1 (4b9)	鷄 gi (5a2)	
7	劇 gi 1 (5a9)	技 gi (5b3)	朴覽、田村 1996
8	冰 bing 1 (5b1)	氷 bing (6a1)	
9	冰 bing 1 (5b2)	氷 bing (6a2)	
10	冰 bing 1 (5b4)	氷 bing (6a4)	
11	句 gyu 1 (7b9)	勾 gyu (8a5)	
12	總 jung 0 (8a4)	捻 jung (8a9)	朴覽、田村 1997
13	無 wu 2 (9b1)	沒 mu (10a2)	慶北
14	功 gung 1 (11b2)	工 gung (10b11)	
15	帖 tie 2 (12a9)	貼 tie (12b8)	朴覽
16	帖 tie 2 (12b4)	貼 tie (13a3)	朴覽
17	標 biao 0 (15a2)	標 biao (14b8)	
18	{門<斗} dyu 1 (18a4)	鬪 dyu (17b1)	
19	博 bo 2 (18a8)	博 bo (17b7)	朴覽
20	拘 gyu 1 (18b5)	{才勾} gyu (18a3)	朴覽
21	少 siao 0 (20a3)	小 siao (19b6)	
22	抱 bao 1 (21a4)	匏 pao (20b7)	

23	抱 bao 1 (21a6)	鈞 pao (20b10)	
24	贏 ing 2 (22b6)	贏 ing (22a1)	
25	贏 ing 2 (22b7)	贏 ing (22a2)	
26	贏 ing 2 (22b9)	贏 ing (22a4)	
27	底 di 1 (23a6)	的 di (22a9)	田村 2000
28	無 wu 2 (24a2)	沒 mu (22b10)	慶北、田村 2000
29	繡 siu 1 (26b1)	綉 siu (24b9)	
30	刺 ci 1 (26b5)	刺 ci (25a1)	朴覽
31	刺 ci 1 (26b8)	刺 ci (25a5)	
32	鈞 gyu 1 (27a1)	鈞 gyu (25a9)	朴覽
33	綉 siu 1 (27a8)	繡 siu (25b8)	
34	櫻 jung 0 (27b1)	綜 jung (25b11)	朴覽、慶北、田村 2001
35	{革免} men 2 (27b8)	幔 men (26a8)	田村 2001
36	刺 ci 1 (28a8)	刺 ci (26b6)	
37	{革詹} cien 1 (28a9)	{革占} cien (26b7)	田村 2001
38	留 riu 2 (28b8)	溜 riu (27a3)	
39	留 riu 2 (30b2)	溜 riu (28b2)	
40	無 wu 2 (32a1)	沒 mu (29b4)	慶北
41	無 wu 2 (32b3)	沒 mu (30a3)	慶北、田村 2002
42	將 jiang 1 (36a4)	穿 ciuen (33a2)	
43	梢 siao 1 (38b3)	稍 sao (35a9)	
44	梢 siao 1 (38b5)	稍 sao (35a11)	
45	鼓 gu 0 (39b2)	鼓 gu (36a3)	
46	雞 gi 1 (40b3)	鷄 gi (36b9)	
47	弔 diao 1 (40b7)	吊 diao (37a2)	
48	蠍 hie 2 (41a6)	蝎 hie (37a10)	
49	斫 jio 2 (42a4)	藥 io (38a3)	
50	取 ciu 0 (46a3)	娶 ciu (40b5)	慶北
51	刺 ci 1 (45b7)	刺 ci (41b4)	
52	取 ciu 0 (46a3)	娶 ciu (41b9)	慶北
53	弔 diao 1 (47b4)	吊 diao (43a6)	
54	回 hui 2 (49b8)	迴 hui (45a5)	
55	醒 sing 1 (55b6)	腥 sing (49b11)	慶北
56	櫻 jung 1 (59b4)	綜 jung (53a3)	朴覽
57	裏 ri 0 (59b4)	裡 ri (53a3)	

58	{乍𠂔} ja 2 (59b5)	{𠂔𠂔/工} ja (53a5)	朴覽
59	{竹/角力} g(i)n 1 (60a1)	筋 gin (53b1)	
60	少 siao 0 (63a8)	小 siao (56a6)	
61	浸 jin 1 (68a4)	侵 cin (60a9)	
62	{革免} men 2 (68b7)	幔 men (60b10)	
63	× (69a3)	的 di (61a3)	
64	煙 ien 1 (70a1)	烟 ien (61b6)	
65	鈎 gyu 1 (70b2)	鈎 gyu (62a3)	
66	舩 ciuen 1 (70b9)	舩 ciuen (62a9)	慶北
67	舩 ciuen 2 (71a1)	舩 ciuen (62a10)	慶北
68	瑠 riu 2 (71a8)	琉 riu (62b5)	
69	瞞 men 2 (73a5)	謾 men (64a7)	
70	瞞 men 2 (73a9)	謾 men (64a10)	
71	知 ji 1 (75b2)	智 ji (66b1)	朴覽

### 3. 『朴通事集覽』と『朴通事諺解』注

上に挙げた 71 例のうち、『朴通事集覽』所収の語彙に関連する異同が 13 例ほど存在する。周知のように、『朴通事諺解』では『朴通事集覽』の記載を注としてテキストに組み入れているが、以下では『翻譯朴通事』と『朴通事諺解』において本文が相違している場合に、後者が『朴通事集覽』の記述をどのように処理しているかを見ることにする。各用例は○で区切られる単位の原文を引き（『翻譯朴通事』→『朴通事諺解』の順）、『朴通事集覽』巻上（「朴覽」と略称、李丙疇 1966 による）における見出しとその釈義、及び『朴通事諺解』巻上における注（「朴注」と略称）から関連する部分を示す：

(4) 荔支 (4b1) → 荔子 (4a9)

○朴覽「荔子」：子作支。荔支生巴峽間、… (2a4-7)

○朴注：子作支。荔支生巴峽間、… (4a9-11)

(7) 叫教坊司十數箇樂工和做院本諸般雜劇的來 (5a7-9) → 叫教坊司十數箇樂工和做院本諸般雜技的來 (5b1-3)

○朴覽「雜劇」：劇、戲也。南村輟耕録曰、…世傳謂之雜劇。(3a8-10)

○朴注：雜劇、匕、戲也。南村輟耕録曰、…世傳謂之雜劇。(5b11-6a1)

(12) 都堂總兵官的詔書 (8a4-5) → 都堂揔兵官的詔書 (8a9)

○朴覽「總兵官」：各都司各有鎮守總兵官一員、以管兵政。(4a4-5)

○朴注：揔兵官、各都司各有鎮守揔兵官一員、以管兵政。(8a11-8b1)

(15) 将米帖兒來 (12a8-9) → 將米貼兒來對官號 (12b8-9)

- 朴覽「米貼」：月俸之貼。質問云、…各該衙門出給印信貼兒。(5b9-10)
- 朴注：米貼、月俸之貼。質問云、…各該衙門出給印信貼兒。(12b9-10)
- (16) 將碎帖兒來 (12b4) → 將碎貼兒來過籌 (13a3)
- 朴覽「碎貼兒」：音義云、出門驗放之貼。(6a1)
- 朴注：碎貼、音義云、出門驗放之貼。(13a4)
- (19) 或是博錢 (18a8) → 或是博錢拿錢 (17b6-7)
- 朴覽「博錢」：質問云、…。(6b7-9)
- 朴注：博錢、質問云、…。(17b7-8)
- (20) 是拘欄衙裏帶匠夏五廂的 (18b5-6) → 是 {才勾} 欄衙裏帶匠夏五廂的 (18a3-4)
- 朴覽「拘欄」：書言故事云、鉤欄俳優棚也、風俗通云、漢文帝廟設抱老鉤欄。…今按、北京有東拘欄、西拘欄。… (6b10-7a3)
- 朴注：書言故事云、鉤欄俳優棚也、風俗通云、漢文帝廟設抱老鉤欄。…今按、北京有東 {才勾} 欄、西 {才勾} 欄。… (18a4-6)
- (30) {糸全} 着一副鴉青段子滿刺嬌護膝 (26b4-6) → {糸全} 着一副鴉青段子滿刺嬌護膝 (24b11-25a2)
- 朴覽「滿刺嬌」：質問云、…謂之滿池嬌。今按、刺、新舊原本皆作池、今詳文義、作刺是。池與刺音相近而訛。(8a10-8b2)
- 朴注：質問云、…謂之滿刺嬌。今按、刺、新舊原本皆作池、今詳文義、作刺是。池与刺音相近而訛。(25a2-4)
- (32) 珊瑚鉤子繫腰 (27a1-2) → 珊瑚鉤子繫腰 (25a9-10)
- 朴覽「鉤子」：…人若帶之、則以其條之一端屈曲爲環、納於鉤獸頭之空。… (8b6-7)
- 朴注：鉤子、…人若帶之、則以條之一端屈曲爲環、納於鉤獸頭之空。… (25a10-25b1)
- (34) 江西十分上等真結櫻帽兒上 (27b1-2) → 江西十分上等真結綜帽兒上 (25b10-26a1)
- 朴覽「結櫻帽」：櫻、木名。… (9a2-5)
- 朴注：櫻、木名。… (26a1-3)
- (56) 京都櫻殿西教場裏 (59b4) → 京都綜殿西教場裡 (53a3-4)
- 朴覽「櫻殿」：作殿閣用櫻木皮苫盖、以爲遊御之所。舊本作棕毛殿、櫻通作棕。(13b10-14a1)
- 朴注：作殿閣用櫻木皮苫盖、以爲遊御之所。舊本作棕毛殿、櫻通作棕。(53a4)
- (58) 官裏前面 {乍工} 柳射弓的多有 (59b5-6) → 官裏前面 {才工} 柳射弓的多有 (53a4-5)

○朴覽「{乍ㄩ} 柳」：…歳時樂事記云、武士軍校 {ネ昔} 柳于撃場。今按、{ネ昔} 字即 {乍ㄩ} 音、而 {乍ㄩ} 字韻書不著、唯免疑雜韻内、音乍、即與挿字音意同。… (14a1-4)

○朴注：{才ㄩ/工} 柳、…歳時樂事記云、武士軍校 {ネ昔} 柳于撃場。今按、{ネ昔} 字即 {乍ㄩ} 音、而 {乍ㄩ} 字韻書不著、唯免疑雜韻内、音乍、即與挿字音意同。…此作 {才ㄩ/工} 恐誤。(53a6-9)

(71) 這的真善知識 (75b2-3) →這的真善智識那裏尋去 (66b1)

○朴覽「善知識」：善知識者、指高僧之稱。知亦作智。反譯名義云、佛菩薩羅漢是善知識、六波羅密三十七品是善知識、法性實際是善知識。(16b1-3)

○朴注：善智識者、指高僧之稱。反譯名義云、佛菩薩羅漢是善智識、六波羅密三十七品是善智識、法性實際是善智識。(66b2-3)

以上の13例のうち、まず注目されるのは『翻譯朴通事』の本文と『朴通事集覽』の見出しが相違する(4)、(15)、(16)の3例である。『朴通事集覽』を『翻譯朴通事』の注釈書と考えた場合、これらにおいて前者は後者に存在しない語に対して注釈を加えていることになり甚だ奇妙である。したがって、崔世珍による『翻譯朴通事』と『朴通事集覽』の編纂はそれぞれが独立してなされたものと考えられる。その順序としては、崔世珍はまず『朴通事』の古本(旧本)及び今本(新本)を参照して『朴通事集覽』を著し、しかるのちに『朴通事』の今本(新本)を改訂して『翻譯朴通事』を編んだ、と考えるのが自然であろう。そして、『朴通事諺解』においては『朴通事集覽』の見出しに合わせべく本文に改訂を施したと思われる。

次に、『朴通事諺解』の注における『朴通事集覽』の処理方法は次の二通りに分かれる：

その一は本文に合わせて『朴通事集覽』の記述を変更するというもので、(12)、(19)、(20)、(30)、(32)、(71)の6例がこれに該当する。このうち(19)、(20)、(30)、(32)はごくわずかな字体の差異であるが、(12)と(71)、特に後者では「知亦作智」を削除するなど、その意図が明確に見て取れる。なお、(30)及び(71)では『朴通事集覽』の所引書(『質問』及び『反譯名義』)の記述にまで変更が及んでいる。

その二は本文に関係なく『朴通事集覽』の記述をそのまま注に組み入れるというもので、(7)、(34)、(56)の3例がこれに該当する。これらにおいては、結果的に本文中に存在しない語に対して注が附されることとなり、辻褄が合わなくなっている。

以上の二つの処理方法が混在しているのが(58)の例で、本文は「{才ㄩ/工}」

字に作り、注の見出しも「{才ㄩ/工}」としているが、『朴通事集覽』の記述はそのまま引いているため、最後に『朴通事諺解』独自の注として「此作 {才ㄩ/工} 恐誤」という一文が附されている。

#### 4. おわりに

上に掲げた71例はいずれも片々たる相違に過ぎないが、それでも『翻譯朴通事』、『朴通事集覽』及び『朴通事諺解』の成書過程・継承過程に関するいくつかの重要な示唆を我々に与えてくれる。また、本稿では取り挙げなかったが、中には「無」と「没」(4例)、「底」と「的」(1例)といった語学的に興味深い異同も見られる。これらを含む他の問題については今後の課題としたい。

#### <参考文献>

- 遠藤光暁 1990 『《翻譯老乞大・朴通事》漢字注音索引』、『開篇』単刊3, 好文出版。
- 慶北大學校 1959 『朴通事上』, 國語國文學資料集4, 慶北大學校大學院國語國文學研究室。
- 京城帝國大學 1943 『朴通事諺解』, 奎章閣叢書8, 京城帝國大學法文學部。
- 河野六郎 1947 「朝鮮語ノ羅馬字轉寫案」, 『Tôyôgo Kenkyû』2; 『河野六郎著作集』1: 96-97, 平凡社, 1976年。
- 末松保和 1943 「朴通事諺解解題」, 奎章閣叢書8所収, 1-3; 『末松保和朝鮮史著作集』6: 152-154, 吉川弘文館, 1997年。
- 大提閣 1974 『翻譯老乞大・朴通事』, 原本影印韓國古典叢書(復元版)Ⅲ諺解・譯語類, 大提閣。
- 田村祐之 1996 「『朴通事諺解』翻訳の試み」, 『饗餐』4: 57-91。
- 田村祐之 1997 「『朴通事諺解』翻訳の試み(2)」, 『饗餐』5: 60-93。
- 田村祐之 1998 「『朴通事諺解』翻訳の試み(3)」, 『饗餐』6: 46-72。
- 田村祐之 1999 「『朴通事諺解』翻訳の試み(4)」, 『饗餐』7: 28-46。
- 田村祐之 2000 「『朴通事諺解』翻訳の試み(5)」, 『饗餐』8: 8-28。
- 田村祐之 2001 「『朴通事諺解』翻訳の試み(6)」, 『饗餐』9: 8-34。
- 田村祐之 2002 「『朴通事諺解』翻訳の試み(7)」, 『饗餐』10: 8-25。
- 李丙疇 1966 『老朴集覽考』, 進修堂。